

会 告

次期評議員選挙結果

先に実施した次期評議員（半数改選）選挙の開票を7月25日に行った。有権者は1,197名、投票数は254通（無効3通）であった。開票結果は以下の通りである。

(次期評議員選挙結果)

柿崎 明人 (東大)	94票	無効3票
北村 英男 (理研)	90	
坂田 誠 (名大)	90	
松下 正 (KEK)	86	
野村 昌治 (KEK)	82	
松井 純爾 (姫工大)	79	
上坪 宏道 (JASRI)	76	
木下 豊彦 (東大)	74	
谷口 雅樹 (広大)	74	
田中健一郎 (広大)	72	
河田 洋 (KEK)	69	
中井 泉 (東理大)	64	
圓山 裕 (広大)	64	
横山 利彦 (分子研)	64	
熊谷 教孝 (JASRI)	63	
河合 潤 (京大)	60	
宇田川康夫 (東北大)	58	
上野 信雄 (千葉大)	56	
古宮 聡 (JASRI)	56	
大熊 春夫 (JASRI)	55	
藤井 保彦 (東大)	54	
竹田 美和 (名大)	53	
繁正 英治 (分子研)	52	
小林 正典 (KEK)	50	

評議員会はこの開票結果に従い、次期評議員を以下の通りとした。

次期評議員 (任期: 2004. 1. 1-2005. 12. 31)

柿崎 明人	上坪 宏道	河田 洋	北村 英男
木下 豊彦	熊谷 教孝	坂田 誠	田中健一郎
谷口 雅樹	中井 泉	野村 昌治	松井 純爾
松下 正	圓山 裕	横山 利彦	

次期も引き続き評議員である者 (任期: 2003. 1. 1-2004. 12. 31)

朝倉 清高	飯田 厚夫	岩崎 博	大野 英雄
籠島 靖	鎌田 雅夫	小林 克己	曾田 一雄
高田 昌樹	高橋 敏男	大門 寛	中川 和道
並河 一道	柳下 明	若槻 壮市	

第17回年会・合同シンポ

第2回実行委員会

2003年7月17日(木) 物質・材料研究機構で開催。

第17回年会・合同シンポの準備状況について報告がなされ、今後必要な準備とスケジュールを確認した。

第68回編集委員会

2003年8月8日(金) 東大工学部で開催。

Vol. 16 No. 3, 4の評価, Vol. 16 No. 5以降の編集方針について検討した。また, Vol. 17からの表紙・本文レイアウト変更についても検討した。

第8回学会奨励賞選考委員会

2003年9月12日(金) 東大工学部で開催。

選考の結果, 下記2名を評議員会に推薦することとした。

井野明洋 (1971年8月15日生)

広島大学理学系研究科物理科学専攻

「銅酸化物高温超伝導体の電子構造の研究」

矢橋牧名 (1971年4月22日生)

勸高輝度光科学研究センター

「強度干渉計による X コヒーレンスの研究」

第74回幹事会

2003年9月13日(土) 東大工学部で開催。

次期評議員選挙結果, 第8回学会奨励賞等について検討した。

第59回評議員会

2003年9月13日(土) 東大工学部で開催。

各幹事報告の他, 次期評議員選挙結果, 第8回学会奨励賞等について審議した。

第9回日本放射光学会将来計画検討特別委員会議事録

日時: 2003年4月19日(土) 11:00~14:00

場所: 東京大学工学部6号館大会議室

出席者: 上坪 (JASRI, 委員長), 石川 (理研), 太田 (東大理), 尾嶋 (東大工), 柿崎 (東大物性研), 河田 (KEK-PF), 北村 (理研), 小杉 (UVSOR), 坂田 (名大工), 佐藤 (東大理), 松下 (KEK-PF, 学会会長), 宮原 (都大理), 若槻 (KEK-PF), 渡辺 (東北大多元研), 木下 (東大物性研, 学会前庶務幹事, オブザーバー), 桜井 (物質材料研究機構, 学会庶務幹事, オブザーバー), 柳下 (KEK-PF, 学会編集幹事, オブザーバー), 百生 (東大新領域, 学会会計幹事, オブザーバー), 高田 (名大工, 学会行事幹事, オブザーバー), 木村 (UVSOR, 学会渉外幹事, オブザーバー), 西野 (学会事務局)

欠席者: 雨宮 (東大新領域), 小林 (KEK-PF), 下村 (原研), 菅 (阪大基礎工), 谷口 (HiSOR), 藤井 (東大物性研)

議事内容

1. 松下会長より, 本委員会開催のいきさつの説明があった。学

術会議物研連等、外では放射光の将来計画についての動きがある一方、本委員会は半年以上開催されていないこと、まとめの報告書を出す時期でありながら実際には出すにいたっていないことなどから、少し議論をした方がよいということで上坪委員長や太田前会長と相談して、召集することとした。

2. 東大、東北大、KEKの最近の状況について、柿崎、佐藤、河田の3委員よりそれぞれ報告があった。その骨子は次のとおりである。

(1) オールジャパンで推進することが決まったVUV-SX高輝度光源は、東大においてH15概算要求を行ったが、残念ながら通らなかった。本計画は、最終段階では、1.8 GeV 500 mA top-up 運転を標準とする周長280 m、長直線部を含め直線部計14箇所のある挿入光源主体の光源として提案している。東大ではH16概算要求について鋭意準備を進めているところである。

(2) 東北大は、H16概算要求から当初計画を軌道修正した。既存設備・場所を利用し、また性格を地域センター型とする放射光計画をもちこんでいる。

(3) KEK-PFは、ERLを主体とする新光源計画の検討に取り組んでいる。2002年当初考えていたMARS+ERLの構想は現在では修正しているが、シングルターンの2.5~5 GeVのERLにより、ピコ~フェムト秒パルス、コヒーレンス、ナノビーム等、新しい特徴を生かした研究や第3世代光源での実験をさらに高度化する研究を提案したく、最近、検討報告書を出版した。また、PFのみならず、KEK機構全体のつくばキャンパス将来計画としても、ERLを主体とする新光源計画がオーソライズされつつある。

3. 3機関からの報告を受け、上坪委員長より、本日の議事について、VUV-SX高輝度光源の問題に集中して議論してはどうかという提案があり、了承された。

4. 上坪委員長より、国立大学法人化により中期計画・中期目標の策定に際し、大学にとって、全国共同利用を旨とする放射光施設に関する概算要求が困難になるかもしれない可能性があり、日本放射光学会としては、VUV-SX高輝度光源の要求活動を強力に応援してゆくことに変わりはないものの、情勢が変わった時のオールターンティブな回答を準備しておく必要はないかという提起があり、意見交換を行った。おおむね、次のようなことが議論された。

(1) 本計画は、学術会議を含め、すでにオールジャパンでオーソライズされ、ただ予算化を待つのみ段階にまで到達しているプロジェクトであり、棚晒し状態でいたずらに時間を失うことなく、直ちに実行に移されるべきである。放射光コミュニティが次、あるいは次の次に提案するであろう将来計画を遅らせないためにも、本計画は一刻も早く決着をつける必要がある。

(2) 法人化後の国立大学のミッションとして「教育」と「研究」が明記され、また設置法の文中に附置研究所が露に記載されないことが最近決まっているため、今後「共同利用」を趣旨とし、しかも多額の後年度負担(維持費)を必要とする施設の要求は国立大学にとって容易ではなくなりつつある。

(3) 法人化後の国立大学共同利用機関のミッションとして「共同利用」と「研究」が明記されることから、文部科学省等の目からはVUV-SX高輝度光源のような計画をKEKのような機関に任せるほうが法的な観点から好都合と考える可能性も考えられる。

(4) VUV-SX高輝度光源をKEKにそのまま建設しようとすることは困難が非常に多い。X線ユーザーがむしろ多数をしめていること、現状PFとPF ARの2リングを維持するだけでも大変であり3リング目は不可能であること、ERL光源を軸とする将来計画を持ち実現に向け努力中であること、加速器のエキスパートがそろっている機関であり陳腐でない斬新で競争力のあるマシンをこそ苦勞してでも整備したいという精神的背景があること等との関係をうまく整合することが重要である。今後検討を行うことは必要であるが、いずれにせよ、短時間で安易に答えを出すことはできない。

5. 議論の結果、万一、東大の概算要求が困難になる情勢になった折にも、予算要求をいたずらに繰り延べる方向ではなく、光源計画の早期実現がかなうよう善処してほしい旨の日本放射光学会としての要望書を作製し、関係機関に提出する必要があるということで一致した。本日中に開催される評議員会に、上坪委員長による文案(別添資料)をたたき台として語るようになった。上坪委員長より、文案はあくまでたたき台であり、上記趣旨をよりよく反映するものに改良してほしい旨、要望があった。

極紫外・軟X線高輝度放射光源計画について

日本放射光学会将来計画特別委員会
委員長 上坪宏道

1. これまでの経緯

極紫外・軟X線高輝度光源(VUV/SX高輝度光源)は放射光コミュニティが長らくその実現を求めていたもので、当初、東京大学/物性研究所および東北大学がそれぞれ独自の全国共同利用施設として提案していた。これをうけて、文部省学術審議会加速器部会はVUV/SX高輝度光源計画について数度にわたり審議し、その重要性を評価したうえで施設整備に向けての関係研究者の協議を促した。その後、平成13年5月にこの計画の早期実現を図るため、東京大学/物性研究所、東北大学および高エネルギー加速器研究機構物質構造科学研究所(物構研)が極紫外・軟X線放射光源計画検討会議(三者検討会議)を設置した。検討会議には文部科学省担当課からも出席して協議が行われ、三者の光源加速器案について外部専門家によるレビューを行った。レビュー委員会は同年12月に報告書をまとめ、本計画は最も実現性の高い研究機関がそのサイトで建設すること、エキスパートを集めたナショナルチームを作り原計画の補強・改良を行うことなどを提案した。一方、日本放射光学会は平成13年4月に将来計画特別委員会を設置し、10年後のわが国における放射光研究のあるべき姿を検討することにした。その最初の検討事項としてVUV/SX高輝度光源について協議し、同年8月に高輝度光源が具備すべき仕様を提言してその早期実現を求めた。ナショナルチームによる設計作業は順調に進み、平成14年4月にはVUV/SX高輝度光源の統合案がまとまった。そこで三者検討会議は文

部科学省に建設サイト/設置機関の選択を委ねるとともに、この案の早期実現をお願いしたが、概算要求は認められるには至らなかった。現在、統合案に基づいた平成16年度概算要求は東京大学が行っている。なお、ナショナルチームによる設計作業は利用計画/ビームライン計画についても行われ、平成14年10月にはデザインレポートとして纏められた。

一方、東北大学は計画を学内/地域共同利用型放射光源として建設するものに変更し、平成16年度概算要求を行っている。

2. 計画を取りまく状況の変化

本計画で目標としているのは、極紫外・軟X線領域で世界最先端の放射光源を早期に実現することである。この施設は、生命科学、物質・材料科学やナノテクノロジー、そして環境科学の基礎的、応用的研究にとって重要な基盤研究施設であり、わが国が科学技術の分野で世界の先導的役割を果たすための重要拠点となる。このことは、現在世界で新第三世代といわれる中型高輝度放射光源が稼動を開始し、また、建設中であることから理解できるであろう。

ところで国の財政事情は年々厳しさを増しており、予算総額の制約とともに効率的な予算執行が強く求められている。したがって、重要性の高い研究基盤施設といえども効率的、経済的に建設/運営する方策を希求しなければならない。さらに、既にいくつかの大型プロジェクトが進行中であることを考慮すると、本計画もその早期実現を図るためには、将来の運営を含めた事業費全体が安くなり、効率的な建設/運営方針を放射光研究コミュニティが検討し提案することが必要である。

一方、国立大学も大きく変貌しようとしている。平成16年4月から全ての国立大学は国立大学法人が設置することになる。これに伴って、大学共同利用機関も大学共同利用機関法人が設立することになり、その業務も法律で規定されている。本計画に関連する大学共同利用機関「高エネルギー加速器研究機構」は、大学共同利用機関法人「高エネルギー加速器研究機構」によって設立され、その業務は、その施設や設備等を「高エネルギー加速器による素粒子、原子核並びに物質の構造及び機能に関する研究、並びに高エネルギー加速器の性能の向上を図るための研究」分野の研究に従事する大学の教員、その他の者の利用に供すること等となっている。一方、国立大学法人は国立大学を設置して教育研究を行うが、その業務には外部からの委託研究や外部との共同研究の実施あるいは外部との教育研究上の連携を行うことなどが上げられている。

国立大学法人法案には、文部科学大臣は6年間において国立大学法人等が達成すべき中期目標を定め、国立大学法人はこれに基づいた中期目標達成のための計画(中期計画)を作成し、その内容や達成度は国の評価委員会による評価を受けることなどが定められている。ただ現時点では、国立大学法人になってから大学がどのように運営されるか、具体的なことには不明な点が多い。

しかし、学内共同利用施設はともかくとして、全国共同利用に必要な多額の経費を国立大学法人が負担して大型施設を独自に設置することには大きな困難が伴うようになろう。したがって、本計画のような多額の建設費と運営経費を必要とする全国共同利用施設は、原則として国立大学ではなく大学共同利用機関が設置し運営するようになると思われる。

3. 本計画の早期実現に向けての提案

「VUV/SX 高輝度光源」は現在わが国の戦略的な研究分野である生命科学、ナノテクノロジー、そして、物質/材料科学の研究において不可欠の研究基盤施設である。本計画は、共同利用施設計画に求められる学術審議会の審議を既に経ていると考えてよく、また、放射光コミュニティの全面的な賛同を得ているので、残るのはいかに予算化するかという問題である。

前節に述べたように、財政上あるいは大学改革の観点から計画が更に延期になるか、あるいは大幅な見直しが必要になることも予想される。そのときの対応は原則的には当事者の判断に委ねられるが、放射光コミュニティとしてはVUV/SX 高輝度光源の早期実現が最も重要であるとの観点から、関係機関が建設サイト/設置機関を含めた見直しを行って新たな方策を提案されることを強く希望する。

第58回評議員会議事録

日時：2003年4月19日(土) 14:00~16:00

場所：東京大学 工学部6号館 大会議室

出席者：朝倉清高、飯田厚夫、岩崎 博、太田俊明、大野英雄、鎌田雅夫、菊田惺志、小杉信博、小林克己、坂井信彦、佐々木 聡、寿栄松宏仁、関 一彦、曾田一雄、高田昌樹(行事幹事)、高橋敏男、大門 寛、中川和道、並河一道、藤森 淳、水木純一郎、柳下 明(編集幹事)、若槻壮市、渡辺 誠 各評議員

松下 正(会長)、桜井健次(庶務幹事)、木村真一(渉外幹事)、百生 敦(会計幹事)、西野(事務局)

欠席者：雨宮慶幸、安藤正海、籠島 靖、下村 理、辛 埴、早川慎二郎

議事：

(審議事項)

1. 議長に並河一道評議員を選出した。
2. 第57回評議員会議事録(案)、第16回総会議事録(案)を承認した。
3. 桜井庶務幹事より前回評議員会以降の入会申込者の一覧が提出され、正会員20名(うち学生6名)の入会を承認した。さらに退会届[正会員21名(うち学生6名)、賛助会員2社]、に関する報告があった。その結果、現在の会員数は正会員1,197名(うち学生100名)、賛助会員55社(60口)となった。
4. 桜井庶務幹事より評議員選挙実施要綱(案)について説明があり、選挙担当委員を佐々木評議員にお願いした。同評議員には開票作業の管理をしていただくこととした。
5. 桜井庶務幹事より第8回日本放射光学会奨励賞について説明があり、松下会長より広い分野から受賞候補者を募るために、選考委員とは別に5~6名の評議員に推薦委員になっていただきたい旨の提案があった。本評議員会はこれを承認し、推薦委員の人選については会長に一任することとした。
6. 雨宮学学会活動総合検討委員会委員長代理の太田評議員より、第2回同委員会での議論の経緯に関する説明があった。とくに1994年の選挙制度改訂で評議員の多様性が拡大したことの評価を踏まえ、制度を変えずに連続性を確保する方策について提起があり、それを受けて種々の議論があった。次期会長および幹事が現執行部の任期期間の最後の半年間の活動

に同席することについては、次期会長は現体制の全体の流れを早くから共有しておくべきだが、各幹事はその仕事を個々に引き継いだ方がよいという意見が出た。また現会長の任期終了年の6月～7月に会長選挙を実施するので、次期会長は現執行部の活動に参加できるという意見もあった。太田執行部が設置した拡大評議員については、既に定着し、機能しているのでこのまま継続していきたい、そのためには細則等で定義する必要があることを確認した。今後の進め方としては、同委員会より提出される細則等の改訂案を現執行部が検討し、その結果を次回評議員会(8月下旬頃)に諮ることとした。

7. 太田評議員より将来計画検討特別委員会での議論の経緯について報告があり、資料「極紫外・軟X線高輝度放射光源計画について」が提出された。出席評議員より、その資料の内容では「要望書」として今、それを出す必要はないのではないかという意見があったが、松下会長より、特別委員会では現在の状況を踏まえ、学会としてどうするかを考えることが急務となっている、関係機関に働きかけ、学会の意見を伝えていかねばならない旨の補足説明があった。本評議員会は、特別委員会の考えを支持することとした。
8. 柳下編集幹事より会誌「投稿規程」の改定案が提出され、研究情報に関する学術的記事やニュースなどのカテゴリーの整理、「著作権」が本学会に属することを明示すること、「執筆要領」を規程から切り離し、新たに作成することなどについて説明があり、これを承認した。また出席評議員より、著者が自分のホームページに自分の論文を転載する場合の著作権について質問があり、その都度編集委員会で協議し、対応することを確認した。
9. 桜井庶務幹事より学術会議第19期会員候補者の推薦について、その選定手順に関する説明があった。さらに各評議員にメールで意見を求めて、本学会が推薦した上坪宏道氏の「会員候補者の資格の認定通知」が学術会議から届いたことが報告され、本評議員会はこれを承認した。
10. 桜井庶務幹事より平成16年度科研費審査委員候補者について、本学会は分科「物理学」の細目「物性Ⅰ」または「物性Ⅱ」の第一段審査委員1名、細目「原子・分子・量子エレクトロニクス・プラズマ」の第一段審査委員1名の推薦を依頼されている旨の説明があった。人選については会長に一任することとした。
11. 木村渉外幹事より、物質・材料研究機構ナノマテリアル研究所からの「第3回「アクティブ・ナノ計測基盤技術の確立」公開成果報告会」および「第1回アクティブ・ナノ計測技術に関する国際シンポジウム」への協賛依頼について説明があり、これを承認した。
12. 木村渉外幹事より、物質・材料研究機構ナノマテリアル研究所からの「第4回「アクティブ・ナノ計測基盤技術の確立」公開成果報告会」への協賛依頼について説明があり、これを承認した。
13. 木村渉外幹事より、第16回マイクロプロセス・ナノテクノロジー国際会議組織委員会からの「第16回マイクロプロセス・ナノテクノロジー国際会議」への協賛依頼について説明があり、これを承認した。

14. 木村渉外幹事より、日本化学会コロイドおよび界面化学部会関西支部からの「第21回関西界面科学セミナー」への協賛依頼について説明があり、これを承認した。
15. 木村渉外幹事より、日本真空協会からの「第43回真空夏季大学」および「第44回真空に関する連合講演会」への協賛依頼について説明があり、これを承認した。
16. 木村渉外幹事より、計測自動制御学会関西支部からの「平成15年度講習会」への協賛依頼について説明があり、これを承認した。
17. 木村渉外幹事より、第6回XAFS討論会実行委員会からの「第6回XAFS討論会」への協賛依頼について説明があり、これを承認した。
18. 木村渉外幹事より、高輝度光科学研究センター・利用研究促進部門Ⅱからの「SPRING-8講習会」への後援依頼について説明があり、これを承認した。なお、この講習会には、学会事務局からも参加し、入会受付コーナーを設置させていただくことを検討中である旨の報告があった。
19. 高輝度光科学研究センター・利用研究促進部門Ⅰからの「ナノテクノロジー総合支援プロジェクト放射光グループ研究成果報告会」への後援依頼について説明があり、これを承認した。
20. 木村渉外幹事より、日本表面科学会からの「英文電子ジャーナル創刊」への協賛依頼について説明があった。Advisory Boardに2名、Editorial Boardに3名を推薦して欲しいということであったが、本学会としては協賛できないという意見が大多数であった。通常の協賛依頼と同様の事務処理をし、既に承諾の返事を出してしまっているため、早速、取消しの手続きをすることとした。

(報告事項)

1. 百生会計幹事より会費の未納状況について、現在の未納額はほぼ例年通りで、4月と8月に再請求し、その1/3は回収する予定である旨の説明があった。さらに、新入会者には口座引き落としを強制しているが、当初は支払い方法の希望を聞いており、現在、未だ全会員の1/3ほどが郵便振替で支払っていること、口座預金不足で引き落とせなかった人が40名ほど居ることなどが報告された。協議の結果、年会会場に会費支払いの受付を作り、その場で回収することも検討することとした。
2. 桜井庶務幹事より本学会会員の「地域別会員数」、「大学・教育機関別会員数」、「企業所属」分布図が提出され、関連研究者の中に未だ多数の未入会者が居ることが説明された。また、その方々に入会を呼びかけるため、松下会長の入会案内状を郵送したことが報告された。電子メールで送ることについては、送付先個人に対する配慮が必要であり慎重に対応しなければならない旨の議論があった。この件に関しては会長および幹事会に取り扱いをまかせることにした。松下会長からは、会員拡大の努力は学会にとって重要であり、評議員各位も周辺の未入会者に声をかけて欲しいという要請があった。
3. 木村渉外幹事より学会ホームページの更新作業について、2名の渉外委員を置き、一般向けおよび会員向け情報の整備、入会手続き・年会講演申込、会誌のオンライン化など、内容

の充実を図ろうとしている旨の報告があった。柳下編集幹事より、会誌のホームページ掲載については、編集委員会でも検討しようとしていることが報告され、松下会長より、渉外委員会と編集委員会との相互協力で進めて欲しいとの要請があった。また現在懸案となっている種々の問題点についても整理し、11月完成に向けて努力する旨の説明があった。

4. 桜井庶務幹事より拡大評議員会のホームページを開設したことが報告された。既に本会議の配布資料は、事前に掲載しており(欠席者からも意見をいただいております)、今回、多くの出席者を得たことの要因となっている旨の説明があった。
5. 柳下編集幹事より第66回編集委員会での検討事項に関する報告があり、同委員会の活動体制について、現在および今後の掲載記事について、原著論文の掲載について、表紙のレイアウト変更についてなどの説明があった。
6. 高田行事幹事より第16回年会・合同シンポの開催状況について、参加者は登録参加者545名、招待者17名、計562名であったこと、および参加者資格・分野の分布などに関する報告があった。
7. 百生会計幹事より第16回年会・合同シンポの会計報告があり、これを承認した。
8. 高田行事幹事より第17回年会・合同シンポの開催計画について、会期・場所・主催・共催および開催準備作業の手順などに関する報告があった。続いて会場(つくば国際会議場)のスライドにより、会場の概観、講演会場について説明があった。また、会場費がかかることから、これまでのようではなく、収支のバランスを取る予定であることも補足された。
9. 高田行事幹事より第1回「シンクロトンアジアフォーラム・佐賀」組織委員会の報告として、会長代理で出席した木村渉外幹事メモが提出され、鎌田評議員より本学会への協力要請があった。
10. 本学会から委員として推薦した佐々木評議員より、第1回IUCr2008準備委員会の報告があった。
11. 次回評議員会は8月下旬~9月上旬に開催が予定されている。日程については、事務局よりアンケートを取ることにした。

会員異動 (2003年9月3日現在)

《正会員入会申込者》

森脇 太郎 (高輝度センター)
 本田 融 (KEK 物構放射光源)
 矢治光一郎 (広大) (学生)
 橋本 信 (東大院物理藤森研) (学生)
 江端 一晃 (東大院新領域藤森研) (学生)
 滝沢 優 (東大理物理) (学生)
 八木 創 (東大院理) (学生)
 藤澤 英樹 (理研表面化学研究室)

山本 靖 (名工大しくみ領域)
 小林 正起 (東大院物理) (学生)
 元垣内敦司 (三重大電気電子工学)
 石井 啓文 (NSRRC TaiwanBeamLines at SRring-8)
 溝端 栄一 (理研横浜研究所)
 三田村 徹 (姫工大工応物)
 竹内 恒博 (名大難処理人工物研究セ)
 高原 淳 (九大先導物質化学研究所)
 栃原 浩 (九大院総理工)
 三浦 信広 (立命館大 COE 推進機構)
 森 嘉久 (岡山理科大)
 望月 孝晏 (姫工大高度研)
 篠崎 芳郎 (東海大医)
 松尾 修司 (福岡大高機能物質研究所)
 原 宏樹 (群馬大工材料工学)
 松田 康弘 (岡山大理物理)

以上24名

《正会員退会申込者》

清水雄一郎 (宮崎大工電気電子工)
 高橋 宏行 (東大院工応化尾嶋研)
 草場 耕一 (広大院理物理科学)
 中島 智明 (東大生研安井研) (学生)
 水谷 竜典 (名大院工)
 早川 耕亮 (信州大工)
 Sardar Saydul Am (広大院)
 池田 雅彦 (東大院理溝川研) (学生)
 岩堀 史洋 (長岡技科大) (学生)
 吉川 秀樹 (東大院工物理工) (学生)
 江橋 節郎 (生理研名誉教授)
 飯高 洋一
 富満 廣 (原研先端基礎研究セ)
 菅原 真澄
 石黒 武彦
 井村 健
 木村 正広 (高知工科大)
 金山 俊昌 (エス・ケイ・ケイ・パキュウムエンジニアリング)
 野田 英之 (日立中研)
 富本 博之 (広大院理物理光化学研)
 新井 宗仁 (産総研)
 井上 隆博 (姫工大高度研)
 神保 健作 (三菱神戸製作所)
 栗原 英明 (姫工大理) (学生)
 関谷 拓雄 (東大院工応化尾嶋研)
 阿部 駿介 (日本オンコロジーシステム)

以上26名